



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.104

異文化交流を言語学習に活かすために

保健福祉学部 教養教育部 准教授

マーティン メドウズ



名寄市立大学では、他の大学と同様に英語が必修科目となっていて、最初の2年間

で4種類の英語の単位を修得しなければなりません。これは、合計100時間弱の授業で英語に触れることになり

ます。う自分自身の評価になりま

す。外国語を学ぶには、その言語が話されている国で生活

することが一番だと思われています。たった数日の滞在で、大学の英語の授業に費やす時間よりも多くの時間を学びたい言語に費やすことが

できるからです。さらに、その言語が話されている文化に身を置くことで、言語使用の文化的背景にも精通することができません。周りの人からすぐにフィードバックが得られず、成功のゴールポストは先生の赤ペンではなく、日常的にやろうとしたことをどれだけ達成できたかとい

私は大学の学部で現代言語（スペイン語、フランス語、ドイツ語）を学びましたが、主に海外での生活や勉強の中で、聞き方や話し方を学びました。その記憶は今でも鮮明で、失敗した

ことも、達成したことも同じくらい覚えています。例えば、すぐ言葉が出ないため、相手が我慢できずに立ち去られることがあったり、アパート探し



のとき、電話で詳細を理解できず苦労したこともありました。一方で、自分の意志が通じる喜びも体験しました。多くの成功や失敗から学んでいくうちに、自信もつき、言葉もすらすらと出るようになってきました。ところが、日本に来たとき

には、漢字の壁に阻まれ、それまで覚えた言語習得の方法が役立たず、「牛乳」

だと思った「カツゲン」をシリアルにかけたこともありました。そのため、言語を学ぶための新しい戦略を開発しなければなりません

でした。大学の英語教室では、このような貴重な体験からの学びをどのように学生へ提供できるかを考えました。私の授業では、インターネットを利用して「バーチャル交流」を取り入れ、「ムードル」という教育管理システムを使って、5000人位の外国人学生と交流しています。時差の関係もあり「生」での交流は難しいですが、学生たちはコメント、写真やビデオを投稿し、海外の文化を学ぶと同時に、日本の文化を英語で説明しています。

また、国際交流センターでは、学生に交流や語学学習の機会を提供するよう努めています。コロナ禍のため、現在の活動は停止していますが、過去には多くの学生が韓国やカナダでの短期語学コースに参加し、いずれの学生も語学力が格段に向上、学習意欲が高まった状態で名寄に戻ってきました。また、韓国や中国からの留学生のために、短期の日本語プログラムも開催しました。今後、渡航制限が緩和されれば、このような機会が復活してくれることを期待しています。

最後になりますが、名寄市民の皆さまにも、留学生の受け入れについてご協力いただけたらと思います。大学に留学生がいれば、日本の文化や言葉を伝え、また、相手の文化を知る機会にもなります。ホームステイの提供などお考えになっている方は、ぜひ大学までご連絡ください。



大学図書館へようこそ！

現在、第31回けんぶち絵本の里大賞で「びばがらす賞」を受賞した本学教授堀川真先生の作品を年末まで展示しています。受賞作『私の名前は宗谷本線』をはじめとした作品をぜひご覧ください。一般の方のご利用は、貸出・返却のみ、滞在時間30分以内となっております。感染対策をしてご来館ください。

【12月の開館について】

22日(水)まで平日午後9時、土曜日午後6時50分閉館です。
23日(木)以降翌年1月10日(月)まで、平日、土曜日午後5時閉館です。
日曜日・祝日、12月31日(金)から1月5日(水)は休館です。

◆問い合わせ
名寄市立大学図書館

01654@7671(直通)
ncu_library@nayoro.ac.jp

大学図書館にはこんな本があります ～「知」への誘い～からもう1歩～

異文化理解と言語学習に関係する図書をご紹介します。
『異文化理解入門』 原沢 伊都夫/編著 研究社
→異文化理解の基本とそれを実生活にどう応用するかをわかりやすく解説。あるある4コマ漫画とよもやま話も面白い。
『多文化社会と異文化コミュニケーション』 池田 理知子ほか/編著 三修社
→企業や大学で広くテキストとして使用された本の改訂新版。テーマに関連する用語、コラムも章ごとにあり、参考文献も豊富。
『もっとにぎやかな外国語の世界』 黒田 龍之介/編著 白水社
→気楽に外国語の世界をのぞけると学ぶのがもっと楽しくなる！留学しなくても、最強の環境は自分の部屋だった。